

科目「 家庭基礎 」

ライフプランにおける自立・共生力を育むための実践的・体験的な指導法の工夫をする  
～主体的・協働的学習を通じた指導法の工夫～

1 単元・小単元	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 ア 青年期の自立と家族・家庭生活設計 <span style="float: right;">(12時間)</span>
2 小単元の目標	人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解させるとともに、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定していくことの重要性について理解を深めさせる。 生涯を見通した自己の生活について主体的に考えさせるとともに、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫させる。
3 本例における生徒の実態	本校は、総合学科、農業科があり、総合学科では、1年次に「家庭基礎」を3単位履修している。 4月当初のアンケートでは、家庭生活への興味・関心が高く、さまざまな実習を楽しみにしている。また、ペアワークやグループワークに積極的に取り組める。しかし、生活体験は乏しく、高校卒業後の直近の生活設計は思い描いて記入できるが、40歳、50歳と年齢が上がるにつれ記述が減少し、高齢期の自分をまったく想像できず、65歳以上が未記入である生徒は15%にも上る。さらにライフプラン実現のために必要な具体策を考える視点をもった生徒は少ない。 また、子育てに関しては、パートナーと5：5程の割合で協力し合いたいと考えている一方で、子育て支援制度などを知る生徒はわずかに7.5%であり、ほとんどの生徒が知らない。
4 育てたい資質・能力	これから自分の進路を具体的に決定していく時期に、家庭の機能や家族の関わりについて見つめさせ、生涯を見通した、自分らしい生き方や家族との関わりについて考えさせたい。責任をもち、意思決定していくことの重要性について認識させ、生活設計を工夫させたい。また、思考力・判断力・表現力を身に付け主体的に生きるために、意思決定の場や言語表現できる場を設定し、意見交流やクロストーク活動などを通し、互いの意見の違いから多様な価値観や考え方に気付かせ、多様性を認める力、コミュニケーション力、課題解決力を育みたい。

【参考文献】

- 新図説 家庭基礎 実教出版
- 2019 生活学Navi 資料+成分表 実況出版
- 内閣府男女共同参画局 男女共同参画白書 平成29年版  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjiyo/whitepaper/h29/zenti/html/zuhyo/zuhyo01-03-08.html](https://www.gender.go.jp/about_danjiyo/whitepaper/h29/zenti/html/zuhyo/zuhyo01-03-08.html)
- 厚生労働省 21世紀出生児縦断調査 及び 21世紀成年者縦断調査特別報告の概況  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/judan/tokubetsu13/dl/O2.pdf>
- ファミリー・サポート・センター  
<https://ogaki-city.mamafre.jp/archives/service/family-support-center/>
- 協調学習 授業デザインハンドブック
- 冊子「未来の生き方を考える」 岐阜県健康福祉部 子ども・女性局 子育て支援課

評価と指導の計画 「家庭基礎」学習活動評価規準 第1 編人とかかわって生きる 第1章 自分らしい生き方と家族

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
1 人生80年を見渡す	○人の一生を生涯発達の見点でとらえさせる。	・未来の自分を想像し、今大切なことを自分の言葉でまとめる。	1	①今の自分を見つめ考えることに意欲的に取り組もうとしている。		①自身を考えるワークを通して、生涯発達の見点で自分の生活課題をまとめている		ワークシート1 定期考査 行動観察
2 今の自分を見つめる	○ライフステージと発達課題について理解させる。 ○自分のマンダラートを作成し自己理解を深めさせる。	・各ライフステージの主な課題を理解する。 ・マンダラートの作成から自己理解を深めるとともに将来について考える。	1			②マンダラートを完成させることができる。	①各ライフステージのおもな課題を理解している。	ワークシート2 定期考査 行動観察
3 青年期の生き方について考える	○人生における青年期の重要性に気付かせる。	・自立に向けた今後の生活をどのように過ごすか考える。 ・生活設計を立てる。	2		①現在の自立度チェックより高校時代に身に付けておくことを考え、述べられる。	③ライフステージごとの課題を踏まえた生活設計を立てることができる。		ワークシート3 定期考査 行動観察
4 労働について考える	○職業選択において重視することを知り、より具体的に進路について考えさせる。	・ピラミッドランキングを活用して、自分の職業選択について考える。	1	②職業選択において大切にしたいことを意欲的に考えようとしている。	②職業選択や雇用について自分の言葉で表現している。		②雇用環境の状況を理解している。	ワークシート4 定期考査 行動観察
5 共に働くことを考える	○男女が互いの人権を尊重し個性と能力を發揮できる男女共同参画社会の在り方を考えさせる。	・シグソー活動を通し、ワーク・ライフ・バランスについて考える。	1		③ワーク・ライフ・バランスに関する資料について正しく情報を読み取り、主体的に考え自分の言葉で表現し発表している。			ワークシート5 定期考査 行動観察
		・ライフプランを見直す。	1			④ライフプランを見直すことができる。		行動観察 ライフプランシート
6 家族って何だろう	○結婚について考え、男女の協力により家庭生活が営まれていることに気付かせる。	・ダイヤモンドランキングを活用したパートナー選びを通して、夫婦で築く家庭生活について考える。	1	③家族・家庭の役割について、自分とのかかわりに興味・関心をもっている。	④パートナー選びを通して、夫婦で築く家庭生活の在り方について考え、意見をまとめている。			ワークシート6 定期考査 行動観察
7 家族に関する法律の理念と背景	○家族の変遷や現代の社会的状況について考えさせる。	・家庭生活と社会の動きとのかかわりについて考える。				⑤家族の変遷や家族・家庭に関する意識の変化などについて、考えをまとめている。		ワークシート7 定期考査 行動観察
8 家族にかかわる法律		・家族法クイズから家族と家庭生活に関する法律に関心をもち旧民法と現行民法の比較より家族の在り方考える。	1		⑥旧民法と現行民法の比較から、家族の在り方について考えている。		③家族・家庭に関する法律の歴史的背景と問題点について理解している。	ワークシート8 定期考査 行動観察
9 現代の家族をとりまくことから	○カード作りにより家族への感謝について考えさせる。	・ポップアップカード作りを通して家族への感謝について考える。	1			⑥日頃の感謝を込め、家族にカードを作ることができる。		ワークシート9 行動観察 カード
生活設計	○自分の将来に展望をもち、それを実現するための生活設計を立てることができる。	・自分の目指すライフスタイルを実現するために生活設計を立てる。	2	④将来の生活に向けて目標を立て展望をもち生活しようとしている。		⑦生活設計を具現化するために必要な情報を収集・整理できる。		ワークシート10 行動観察
						⑧自分の目指すライフスタイルを実現するためにより良い生活設計を立てることができる。	④広い視野で生活を創造していくことの重要性を認識している。	ワークシート11 行動観察
			13					

学習指導案

科目名	家庭基礎	使用教科書	新図説 家庭基礎	実教出版
単元名	自分らしい生き方と家族			
本時の主題	共に働くことを考える (本時 7/12)			
指導観	現代は、グローバル化・情報化・少子高齢化などの急速な進展により変化の激しい社会であり、先を見据えた将来について考えることは意義があるが、青年期に位置する生徒にとっては大変難しい。そこで、シグソー活動により幅広い知識を得、将来を見通して自己の生活、ワーク・ライフ・バランスについて考えさせ、意識変化をライフプランへと繋げ、主体的に人生を考えられる生徒を育てたい。自分の将来像を具体的にイメージし、ロールプレイやグループでの意見交流、発表などの学習を通し、多様性を認める力や他者を尊重する態度、意思決定力、言語表現力、コミュニケーション力を養いたい。			
本時の目標	家族の生活での問題点と資料から、ワーク・ライフ・バランスについて考え、意見を自分の言葉で表現できる。シグソー法のグループ活動に主体的に取り組む。			
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について	教師の指導
導入 5分	目標確認	<p>本時の学習目標を確認する。</p> <p>1 アンケート結果について知る。核家族での子育てでの問題点のロールプレイの発表を見て、アドバイスを考え、まとめる。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父親は残業が多かったりするから、お迎えは無理。</li> <li>・母親だけでなく交替で保育園のお迎えをしようとよい。</li> <li>・アドバイスを考えられない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に実施した結婚や仕事に関する意識調査の結果を知らせる。</li> <li>・エキスパート活動・シグソー活動を知らせる。</li> </ul>
	<p>エキスパート活動</p> <p>シグソー活動</p>	<p>2 共に働くことに関する情報を集めよう(エキスパート活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業資料の内容を読み取る。</li> <li>・資料の内容を確認し合う。</li> </ul> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と欧米とで男性の家事・育児時間が大きく違う。</li> <li>・正規雇用者の親の方が第一子出生が起りやすい。</li> <li>・育児休業制度が企業で活用できることを知っている第一子出生が起りやすい。</li> <li>・子育てしながら働き続けるための制度がある。</li> </ul> <p>3 情報を持ち寄り、班で交流しよう。(シグソー活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパート活動の内容を報告し合う。</li> <li>・そこからわかることを自分の言葉でまとめる。</li> </ul> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動に積極的に参加し、自分の言葉で情報を伝え、相手の意見もよく聞くことができる。</li> <li>・他の生徒の意見を聞き、気付かなかったことを発見し考えを深めている。</li> <li>・グループ内で意見交流できない。</li> </ul>	<p>評価規準【思考・判断・表現】</p> <p>-③</p> <p>ワーク・ライフ・バランスに関する資料について、正しく情報を読み取り、主体的に考え自分の言葉で表現し発表している。</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>行動観察 ワークシート</p> <p>Aの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いに積極的に参加し、それぞれの資料について読み取ったことを自分の言葉で具体的に記述し、伝え合い、自分の意見を発表している。</li> <li>・他者の発表により、気付かなかったことを発見し、考えを深めている。</li> </ul>	<p>&lt;Bを実現するための指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを取らせる。</li> <li>・資料より読み取ったことが何か、具体的に簡潔に記入させる。</li> </ul> <p>&lt;Cへの手だて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導により、仲間の意見をワークシートに記入するよう促す。</li> </ul>
展開 40分	動画視聴 クロストーク	<p>4 核家族へのアドバイスを再度考え、発表しよう(クロストーク活動)</p> <p>本校の先生方のインタビュー動画の視聴とシグソー活動から、もう一度アドバイスを考え、各班で意見交流し、全体発表をする。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は他国に比べて男性の育児時間が少なく、実際にせっかくの子育て期に子どもとあまり関われないことを残念に思っている先生(男性)もいたから、自分は、制度の活用を考えて生活していきたい。</li> <li>・子育てを応援する制度や支援策を知らなかった。将来は活用して協力して子育てしたい。</li> <li>・考えることができない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な価値観が認められるよう働きかける。</li> </ul>
まとめ 5分	本時のまとめ 次回予告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女が共に働くために、育児休業・子育て支援制度を利用すると良いことを知る。</li> <li>・本時の取り組みを振り返り、自己評価を記入する。</li> <li>・次回、ライフプランの見直しをすることを知らせる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女が共に働く社会を実現するために、制度や支援策があることを確認する。</li> </ul>

□工夫している点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーク・ライフ・バランスを考えることが、より良い将来設計に繋がることがわかるよう具体例として本校の先生方のインタビュー動画を取り入れた。</li> <li>・学習意欲を高めるため、エキスパート活動、シグソー活動の班員数を同じにし、グループ内で必ず発言するようにした。</li> <li>・ホワイトボードを活用したグループ活動での意見交流に、4月当初より積極性がみられるため、さらに協働性を深められるよう、クロストーク活動を取り入れた。</li> </ul>
--

実践後の評価結果

	学習活動における 具体的評価規準 (B)	「十分満足できる」と 判断される状況 (A)	「努力を要する」と 判断される状況 (C)
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内の発表が行われている。</li> <li>各自が意見をまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いに積極的に参加し、それぞれの資料について読み取ったことを自分の言葉で具体的に記述し、伝え合い、自分の意見を発表している。</li> <li>他者の発表により、気付かなかったことを発見し、考えを深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で発表が行われていない。</li> <li>各自が自分の言葉で意見をまとめられない。</li> </ul>
生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自の意見をグループ内で発表できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で役割分担し、活発に意見交流している。</li> <li>自分の言葉でまとめた情報を伝え合い、そこから自分の考えをまとめ発表し、考え方の違いに気づき、考えを深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの意見交流に参加しようとしめない。</li> </ul>
記述例	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料から読み取った情報をグループで交流できた。ワーク・ライフ・バランスは大切だと思った。</li> <li>自分で考えたり、交流したりする活動でワーク・ライフ・バランスについて考えることができた。様々な支援やサービスがあることも分かった。</li> <li>シグソー活動では自分の担当の資料をしっかりと伝えることができたし、意見を出し合えたので良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初はアドバイスすることが悪い浮かばなかったけれど、シグソー活動や実際のインタビューからどのようなアドバイスがよいかわかった。また、核家族でも支援を受けられるサービスを活用すれば子育てができることを学べた。家族の中でコミュニケーションを増やし、自分のワーク・ライフ・バランスを見直したいと思った。</li> <li>実際のインタビューから仕事と家庭の両立について聞き、またグループでのシグソー活動の交流から、共働きでも両立するための手段がたくさんあることを知った。私は将来、子どもが生まれたら、育休をとり、復帰したい。そして少し誰かの手助けを借りて、制度も支援も利用して両立させたい。</li> <li>世界的に見ても夫のほうが育児や家事をする時間が短く、特に日本はその差がはっきりしていた。今、ファミリーサポートなどといった子育てを支援する制度、取り組みも増え、育休も女性だけでなく男性も取得することができるなど、仕事と子育ての両立ができる社会になりつつあることがわかった。僕は子育てと仕事が両立できる、ワーク・ライフ・バランスを考えたい生活を送りたい。妻にまかせっきりでなく協力したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート未記入</li> </ul>
	42%	58%	0%

授業後の課題と改善

<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な先生3名からの子育てインタビューでは大変熱心に視聴することができ、将来のモデルとして捉えられたようである。今後も取り入れていきたい。今回は世代と実態の違いを考慮して、3名の先生にご協力いただいたが、核家族における子育てでの問題点のロールプレイ内容と合致している先生の実際の話や聞きせたり、ロールプレイの内容を合わせたりすると、1時間の流れがより整うと感じた。</li> <li>「家庭基礎」では、グループワークは非常に活発に行っており、今回は2回目の『知識構成型シグソー活動』であった。情報を正しく読み取り、それを相手に伝えること（思考力・表現力）を今回の内容でも大切にしたいと考え行ったが、明日の問題に対して、子育て支援センターや育児休業を利用するといった不可能なアドバイスが多くみられた。読み取る資料だけでは与えた課題を解決しきれなかった部分があり、用意する資料や授業の展開、発問を工夫する必要がある。また、冒頭に行ったロールプレイでは生徒のアドリブを活用できるとよかった。</li> <li>活動をすること自体ではなく、それを行うことで効果的な授業展開につながるかどうか、つなげるためにはどうしたらよいかをよく考慮して、今後も主体的、協働的学習を積極的に取り入れていきたい。</li> </ul>
---